

IV-373

街路景観評価における評価メディアの影響分析

(株) アール・アイ・エー 正会員 奥居 淳
 名古屋工業大学 正会員 和田かおる
 名古屋工業大学 正会員 山本幸司

1. はじめに

景観要素が人に与える心理的影響を量的に分析する研究は評価実験に基づくものが多い。ところが、評価実験における評価メディアが評価結果に及ぼす影響についてはあまり分析が進んでいない。そこで本研究では、街路景観評価に対象を絞って、評価メディア・評価順序の違いによる評価への影響について分析する。

2. 街路景観評価実験

評価メディア・評価順序の違いによって評価がどのように変化するかを分析するためにスライドおよびビデオを用いて街路景観評価実験を3回行った。各実験で使用したスライドおよびビデオはともに被験者（名古屋工業大学学生）が知らない福井市内の裏通り、大通り、表通り、路地、繁華街の5地点を選定し、撮影したものである。なお、学習効果を排除するために、各実験ごとに異なる被験者グループを対象とした。各実験における被験者数は、実験1（名工大土木系学生28名）、実験2（同79名）、実験3（同34名）である。評価方法は表1に示す15の評定尺度に5段階SD法を用いた。

評価順序は表2に示すように、実験1ではスライド5点の評価後にビデオ5点を評価させ、実験2ではビデオの評価後にスライドを評価させた。これは、実験1と実験2でスライドとビデオの映写順序を逆にすることによって、先入観の有無が評価結果にどういった影響を与えるかを分析することを目的としたものである。また、実験3ではビデオ音声の影響を分析するため、スライドの評価後に音声をつけたビデオを評価させた。

各実験における評定尺度ごとの因子負荷量を第6因子まで求めたが、表3には各実験で抽出された主要4因子の意味づけと因子寄与率を示す。

3. 評価順序の違いによる学習効果の影響に

関する分析

ここでは被験者の心理状態変化の一側面として、景観評価実験を行う際、被験者の評価対象に対する先入観の有無によって評価結果に影響が現れるかどうかについて述べる。

最初にスライドを評価した場合とビデオを見た後で評価した場合との評価得点の違いに

表1 実験に用いた評定尺度

すっきりしたーごみごみした
古いー新しい
特徴のあるー特徴のない
落ち着きのあるー落ち着きのない
派手なー地味な
騒々しいー静かな
明るいー暗い
好きー嫌い
緑が多いー緑が少ない
無彩色なー一色とりどりな
活気のあるー沈滞した
広いー狭い
快適なー不快な
うっとりしいーさわやかな
楽しいーつまらない

表2 各実験の映写順序

順序	対象地	実験1	実験2	実験3
1	裏通り	スライド1	ビデオ1	スライド1
2	大通り	スライド2	ビデオ2	スライド2
3	表通り	スライド3	ビデオ3	スライド3
4	路地	スライド4	ビデオ4	スライド4
5	繁華街	スライド5	ビデオ5	スライド5
6	裏通り	ビデオ1	スライド1	ビデオ1※
7	大通り	ビデオ2	スライド2	ビデオ2※
8	表通り	ビデオ3	スライド3	ビデオ3※
9	路地	ビデオ4	スライド4	ビデオ4※
10	繁華街	ビデオ5	スライド5	ビデオ5※

※音声なし

表3 主要4因子の因子寄与率

	快適性	華美性	開放性	特徴性	寄与率
スライド（実験1）	31.6	22.3	4.4	10.4	68.7
ビデオ（実験1）	20.8	25.9	11.2	5.8	63.7
スライド（実験2）	31.1	23.7	10.9	5.0	70.7
ビデオ（実験2）	30.2	23.8	9.7	5.9	69.6
スライド（実験3）	33.6	22.8	8.6	4.8	69.8
ビデオ（実験3）	30.1	26.1	4.4	8.8	69.4

ついて、実験1におけるスライドの評価と実験2におけるスライドの評価を比較して分析した。この結果、次のことが結論づけられた。

①街路景観評価において、被験者は情報の不足している評定尺度に対しては、個人の持つ一般的な街路のイメージで補って評価を行うものと推察できる。

②事前にビデオもしくはスライドを見た後で、スライドあるいはビデオによって評価した場合は、それが先入観として被験者の判断に影響を与えることが確認された。

4. 街路景観評価におけるスライド写真とビデオ映像による評価の比較分析

ここでは、評価媒体にスライドとビデオを用いた場合の評価の差を比較し、どのような景観要素によって差が生じるかを確認する。

表4は各実験における街路景観を構成する主要因子のスライドとビデオの平均値の差（スライド評価の平均値よりビデオ評価の平均値を差し引いた値）を示したものである。これによるとスライドと音声入りビデオとの評価媒体の違いによる影響が快適性因子、特徴性因子に強く現れることが明らかとなった。また、実験3では、スライドと音声なしビデオとでは動きの面で違いがあるにもかかわらず、両者の間にあまり大きな差異は生じないことが確かめられた。

これらのことから、街路景観評価におけるスライド（静止画）、ビデオ（動画＋音声）、ビデオ（動画）という評価媒体の違いは、被験者の評価に少なからず影響を及ぼすことが明らかとなった。また評価の違いを生む要素は、動画に音が入ることによって、快適性因子といった景観評価上重要な要素にまで影響が表れることが明らかになった。さらに実験で使ったビデオ音声はほとんどが車両の騒音であり、騒音によって快適性が低く評価されることもこの分析によって確かめられた。しかし、裏通りでの評価は逆に快適性が高く評価されている。よってこれは、視覚的快適性に起因するものであると考えられる。

以上をまとめると次のようになる。

①スライドと音声入りビデオとの評価媒体による違いは、ビデオの音声、動きによる影響が最も大きいことが確かめられた。それに対し、物理量的な要素には違いが見られなかった。

②スライドと音声なしビデオとの評価媒体による違いは、ビデオの動きによる影響が最も大きいことが確かめられた。また、音声なしビデオにあってスライドにない要素は車や人の動きのみであるにもかかわらず、音声を扱う評定尺度もスライドとビデオとでは評価得点が異なった。

③快適性への影響はビデオの音声に深く関係するが、動きには関係しないことが確かめられた。

5. おわりに

本研究では福井市内の街路を対象として、街路景観評価における評価メディアの影響の有無について分析した。その結果として、スライドとビデオとでは評価に差を生じ、特に快適性に顕著に現れることを確認した。しかし、今回の実験では裏通りを除く評価対象において音声が車の騒音のみに限られたことにより、音声の種類による評価の違いなどについては十分に分析することができなかった。しかしながら、評価媒体の違いが被験者の心的空間に影響を及ぼすことが確認できたことや、各被験者が評価対象地点に対するイメージを評価に反映させていることが確かめられたことなど、興味深い研究成果が得られた。

表 4 主要因子の因子得点差

		実験 1	実験 2	実験 3
快適性	裏通り	1.24	0.12	0.24
	大通り	-0.81	-0.09	-0.01
	表通り	-0.79	-0.18	-0.26
	路地	0.30	-0.01	-0.40
	繁華街	0.06	0.16	0.42
華美性	裏通り	0.26	-0.03	-0.36
	大通り	-0.21	0.17	0.32
	表通り	-0.20	-0.17	-0.02
	路地	0.24	-0.18	0.14
	繁華街	-0.08	0.19	-0.07
開放性	裏通り	0.00	-0.03	-0.27
	大通り	-0.18	-0.05	0.22
	表通り	0.30	0.11	-0.09
	路地	0.04	0.14	0.18
	繁華街	-0.16	-0.19	-0.04
特徴性	裏通り	0.40	0.01	0.20
	大通り	0.12	-0.11	-0.21
	表通り	-0.18	0.22	-0.08
	路地	-0.55	0.01	0.17
	繁華街	0.22	-0.14	-0.08